

ヤマビルの被害を防ぐために



☆☆☆☆ 農林業従事者、地域住民の皆さんへ ☆☆☆☆



1 ヤマビルを見つけたら

庭先や畑などでヤマビルを見つけたら、定着して繁殖しないように、すぐに身近なものを使って駆除しておきましょう。

(注) ヤマビルは、靴で踏みつぶすだけでは死にません。



消毒用エタノールや塩、食酢、殺ヒルスプレー等かける

塩入容器にヒルを入れて殺す



ハサミで切る

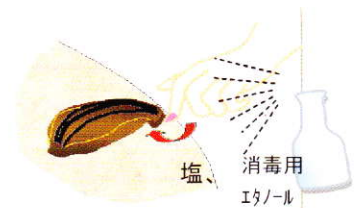


たばこやライターの火で焼く
(火傷や火災に注意)

2 吸血されたら

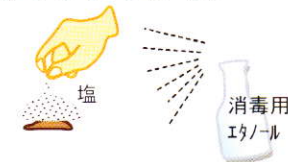
① ヤマビルを取り除く。

吸盤を剥すようにして、爪でこそげる。
塩や消毒用エタノールなどをヒルにかけて除去。

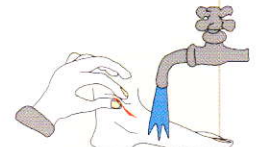


② 取り除いたヤマビルを殺す。(吸血したヒルは産卵をして増えてしまうから)

塩や消毒用エタノールなどをかける。
殺ヒルスプレーや虫よけスプレーをかける。



③ 傷口を指でつまんでヒルの唾液成分を搾り出し、消毒用エタノールや水で洗う。(治りが早い)



④ 絆創膏を貼って、血が流れるのを抑える。
(抗ヒスタミン剤などの軟膏をぬっておくと、かゆみが抑えられる。
2～3時間ごとに貼りかえるとよい。)

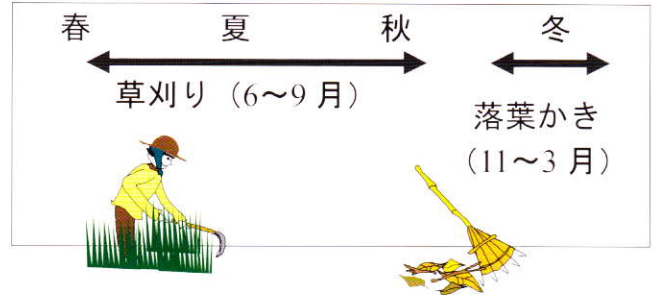


※症状が続き発疹や熱が治まらない場合は、皮膚科の医師に相談しましょう。

3 周辺環境の手入れ（草刈り 落ち葉かき）

ヤマビルは乾燥した環境を嫌うことから、日当たりや風通しを良くし、ヤマビルが生息しにくい環境にすることが大切です。

例えば、家や畑の周囲などの草刈り、樹木の伐採・剪定、冬の落ち葉かきなどが有効です。



| | |
|----------|--|
| 草刈りの方 | <ul style="list-style-type: none"> ・刈った草をそのままにせず、その場から取り除き、数か所にまとめて乾燥させる。 ・刈った草を乾燥させにくい場合は、土をかけるか穴に埋める、堆肥化するなどして確実に処分する。 |
| 落ち葉かきの方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・地面が見える程度に落葉を除去する。 |

<ヤマビルの生息しやすい場所>

- ・ 木陰や物陰
- ・ 窪地や谷筋の湿気が多い所
- ・ 溪流や水域の周辺
- ・ 草地
- ・ 野生動物が出現する所
- ・ 人が多く通る所

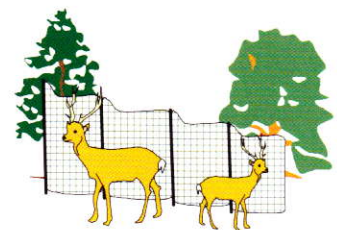
| | | |
|------------------------------|--------------------------------|--|
| <p>登山道・林道</p> <p>道の端（山側）</p> | <p>庭先・公園</p> <p>遊具やベンチ等の物陰</p> | <p>キャンプ場</p> <p>山際、炊事場、トイレ周辺、キャンプサイト周辺</p> |
|------------------------------|--------------------------------|--|

4 野生動物の侵入防止柵

ヤマビルによる吸血被害を拡大させないためには、ヤマビルの運搬役とされるニホンジカやイノシシなどの野生動物を、生活圏に近づけないことが重要です。

農地や住宅地周辺に野生動物が多く出現している場合は、山林と生活圏の間に獣害防止柵を設置して動物の侵入を防ぎます。

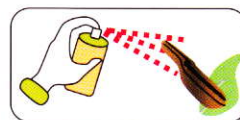
さらに柵周辺の樹木の伐採や草刈りなど行うことにより、乾燥した見通しのよい空閑地帯をつくってヤマビルやニホンジカ等を近寄らせない環境整備を行うことも重要です。



5 薬剤の使用

ヤマビルが多く生息している地域で、人が頻繁に出入りする場所に防除効果のある薬剤を撒くことにより、吸血被害を軽減させることができます。

市販の薬剤には、ディートを有効成分とするスプレーや粉剤・液剤があります。



【使用方法】

散布前にヤマビルの誘引を行うことが重要です。誘引して地表にヤマビルを誘い出し、対面散布法で薬剤をヤマビルに直接付着するように散布します。

- 手順
- ① 吸血被害を防ぐ…吸血被害を予防する服装をして、忌避剤をスプレーする
 - ② 除草…散布前に雑草を刈り、薬剤がヤマビルの体表にかかりやすくする
 - ③ ヤマビル誘引…竹箒などを使い2～3名でヤマビルを誘い出す
 - ④ 散布…散布量の目安は、地表がうっすらと白くなる程度 (10～20 g / m²)



服装・忌避剤



除草



誘引



散布

【ヤマビルの誘引】

熊手や棒などで地表をかき回したり振動を与えたりし、息（二酸化炭素や熱）を吹き付けることを約3～5分続けて行います。

【対面散布法の必要性】

ヤマビルは2つの吸盤を使ってシャクトリムシ状に歩いて石や枯れ葉に隠れているので、一旦ヤマビルをおびき出し（誘引）直接体表に薬剤を散布することが必要です。

薬剤を空間に噴霧しても、ヤマビルは蚊やハエのように飛ぶことはなく、薬剤が直接体表に付着しないので、ヤマビルは死にません。

【使用上の注意点】

薬剤を多量に散布することにより自然環境へ影響が及ぶ恐れもあるため、緊急的・局所的な対策として適切な散布を行う必要があります。また水域への流出を防ぐために沢や河川周辺での散布は避けましょう。

6 継続した対策

ヤマビルの生息しにくい環境づくりや野生動物の侵入防止柵の設置、薬剤の使用などによってヤマビル数を減少させることはできても、簡単に全滅させることは困難です。そのため、効果的な対策を根気よく継続していくことが、被害を防ぐために重要です。

7 吸血予防のために

ヤマビルに吸血されないためには、靴下や長靴を用意するとともにヤマビルがもぐり込む服装のすき間をなくし、靴や靴下などの足まわりに忌避剤を一面に塗布しておけば、ヤマビルの侵入を防ぐことができます。

<活動時期>

吸血行動が活発に見られるのは4月から10月で、特に気温が25℃前後で湿度70%程度の6月から9月ごろには、地表にヤマビルが多く見られるので、注意が必要です。

<服装>

- ① 長靴や地下足袋などを履く（サンダル、運動靴などは吸血されやすい）。
- ② 靴下は、長いもの、生地目が細かいものを履く。
- ③ ズボンの裾を靴下の中に入れる。上着の裾をズボンの中に入れる。
- ④ 首や肩周りに、忌避剤をつけた手ぬぐい等を巻く。

<忌避剤>

塩水（濃度20%）や市販の忌避スプレーなど

忌避剤の使い方



問い合わせ先：

神奈川県県央地域県政総合センター 環境部環境調整課

〒243-0004 厚木市水引2-3-1 電話(046)224-1111 内線 2231~2234